

## (1) FD 研修会

### 【第1回(6月6日)】

参加者数 10 名 講師／報告者 福田亘博 教育学部長

#### 「教育学部のFD活動について」

平成 26 年度教育学部がスタートするにあたって、教育学部のFD活動の概要について説明がされた。具体的には、「FD」の定義、「FD」の背景・根拠となる法律、FD活動における教員の責務、FDの組織的な取り組み及び個人的な取り組み、PDCA サイクルによる授業改善サイクル、教員研修、平成 26 年度のFD研修会の内容、教職課程の質保証(答申)などについて説明された。

### 【第2回(7月3日)】

参加者数 11 名 講師／報告者 岩橋法雄 教授

#### 「今、これからの大学で私たちはどう生きぬくのか」

まず最初に朝日新聞の記事から、学校教育法改正により学長の権限が強化されていく時代が到来し、その場合の大学経営を考える必要が出て来るとの説明がされた後、本学の開学 20 周年記念式典における上杉道世先生(慶應義塾大学信濃町キャンパス事務長「テーマ: 近未来の社会と大学」)の講演で「大学経営では、企業的なトップダウンと教育集團のボトムアップがうまく相互作用し、新しい知的集團のマネジメント手法が見出される必要がある」ことを例に挙げられ、そのトップダウンとボトムアップのバランスを取ることが今後の大学運営にとって重要であることを指摘された。

ついで、最近までの中央教育審議会で検討されている大学改革の方向性・答申について、時系列的に説明がされた。特に、教員養成課程を取り巻く環境は一層厳しくなり、教育実践力のある人材を育成するためにしっかりとした教育システムを構築・推進することが必要であるとの認識が紹介された。

### 【第3回(7月17日)】

参加者数 10 名 講師／報告者 野崎秀正 准教授

#### 『忍ヶ丘教養』の授業について

まず『忍ヶ丘教養』についての説明、並びに授業計画について報告があり、その内容や方法論などの検討や確認を行った。

『忍ヶ丘教養』は、教養教育分野における教養基礎科目(必修)として位置づけされた授業であり、建学の精神「礼節・勤労」に則り、豊かな人間性と高い教養を身につけることを目的とした本学教育学部独自のカリキュラムである。授業は、1 年前期から 2 年後期の I～IV の 4 コマの授業において、I: 大学での自主的・継続的な学習能力の修得、II: コミュニケーション能力の修得、III: 地域～国際における教育の理解、IV: 「忍ヶ丘教養 I・

Ⅱ・Ⅲ」で取得した学修成果を具体的に自分で取りまとめて発表・実践する授業内容で構成されており、大学で学んでいくために必要な資質を段階的、体系的に学んでいくカリキュラムとして設置している。

1 年前期に取り組んだ忍ヶ丘教養Ⅰの授業について学生の反応等から所定の授業目的が達成されたことが報告された。また、1 年後期に開講される忍ヶ丘教養Ⅱ、2 年前期で開講される忍ヶ丘教養Ⅲについて授業計画が説明された。忍ヶ丘教養Ⅲでは、教育等の関連情報について、地域から国際的な観点・背景等までを取り上げることになっており、これらの授業内容を講義できる相応しい外部講師を選考・依頼する必要があることが確認された。また、忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅲの総括的な位置づけとなっている「忍ヶ丘教養Ⅳ」では、教員ごとに数名の学生を配置し、学生自身が選択したテーマについて、教員が情報収集・整理・発表までの形で実施出来るように指導することが確認された。また、成績評価では指導教員が情報収集～発表までのプロセスを評価し、口頭発表については教育学部教員による評価をを合計して、最終評価点とすることが説明された。

#### 【第4回（8月8日）】

参加者数 10 名 講師／報告者 宮崎大学農学部 酒井正博 教授

##### ① FD の組織的な取り組み —JABEE 教育の特徴—

宮崎大学農学部から酒井正博先生を招聘して、JABEE（日本技術者認定機構）について教育改善の組織的な取り組みを中心に講演をお願いした。JABEE の基本構想（学習成果重視、学習・教育到達目標の公表と卒業生の知識・能力の明示、国際的同等性の確保、継続的改善など）、その役割や教育プログラムの認定の目的などについて説明された。ついで、宮崎大学農学部応用生物科学科が平成 14 年度の試行審査以降現在まで JABEE が定める基準 1～基準 4 までの項目について、それぞれ実施してきた教育改革を説明された。最後に、JABEE を導入された後、学生の事前・事後学修時間は飛躍的に増加し、また教員の授業に取り組む姿勢・熱意が学生によっても大いに感じられるようになったとの評価を紹介された。さらに、社会における（企業等）卒業生の評価などでも非常に好評であることなどが紹介され、JABEE 導入のメリットを述べられた。

教育学部においても、JABEE と同様に、教育目標とカリキュラムポリシーの設定、CAP 制の導入や組織的な FD を推進することにしており、参考にすべき点が多いと感じられた。

参加者数 10 名 講師／報告者 中原邦博 講師

##### ② 学生教職支援センターの業務内容と今後の運営について

本学に設置された「学生教職支援センター」について、中原邦博センター長より、教育学部および国際教養学部の学生で、教職課程を履修している者を対象に教員採用試験に合格するまで徹底的に支援・指導する他、幼稚園や保育所に就職を希望する学生に対しても細やかな指導・助言・情報提供を行うことが説明された。また、当センターでは、実務経

験を有する教職員による「教職についての相談に応じる教職相談室」と「教職関係資料を自由に閲覧・利用できる閲覧室」を設け、教員採用試験の対策講座なども定期的実施していく計画が示された。特に、教育学部においては、「人間性豊かで燃えるような情熱と指導力・資質を身に付けた教員の養成」を掲げ、「宮崎国際大学教育学部教員合格プロジェクト」を推進することが報告された。

### 【第5回（9月4日）】

参加者数 10名 講師／報告者 福田亘博 教育学部長

#### ① 【学修ポートフォリオとは！！】

ポートフォリオは、1980年代に米国で教員の評価方法の一つとして開発された経緯を踏まえ、現在日本の多くの教育機関で試行・実践されているポートフォリオについて、その種類や目的・定義などについて説明がされた。ついで、教育学部で採用する学修ポートフォリオについて、導入した目的として、①教育目標に対する学生の意識を通して教員採用試験合格を目指す意志を常に意識させること、②学生の学修過程を含めた学修成果を把握すること、また③コメント欄を使うことにより学生が自分の課題を記述することで問題点をより明確にできること、また④学部が学生の指導・助言を行うことに活用することなどが説明された。そして、これらのポートフォリオを経年的に積み上げることで、最終的に学生の希望する教員採用試験合格やその他の教育関連企業への就職を目指すことに繋げたいことが説明された。

また、教育学部では今回採用した学修ポートフォリオについて、まずシステムを構築し、所定の目的を達成させることを優先することが確認された。

参加者数 10名 講師／報告者 外山雅史 学務係

#### ② 教育学部学生の学修・実態調査（2014年7月23日実施）

本学において従来より、学生の生活状況・学習に対する姿勢などを把握するために大学データベース上に構築されたシステムについて説明がされた後、教育学部においても同様のシステムで学生の実態調査を行ったことが説明された。その結果、教育学部の学生について、特に英語に対する知識や理解において課題・意識を抱えていることが浮かび上がり、英語教育を今後行う際の参考とする必要があることが報告された。また、予習・復習などの自宅学習では、学習量と学修方法に問題がある可能性が浮かび上がり、早急な指導が必要であることが確認・共有された。

### 【第6回（11月20日）】

参加者数 11名 講師／報告者 福田亘博 教育学部長

#### 「我が国におけるアクティブラーニングの現状と課題」

我が国の大学教育について、従来の設置基準にある講義と演習・実習・実験との関係が

近年活発に導入されているアクティブラーニングと同義であるとの説明から始まり、アクティブラーニングの定義、手法、教育効果などの説明があった。また、多くの国・公・私立大学でアクティブラーニングが積極的に導入されているが、その良い点と問題点があることなどが説明された。最後に、教育学部としてアクティブラーニングの導入について、「教養」・「教科」・「教職」科目での教育目標・内容を勘案してその手法を検討・導入する必要があることが指摘された。特に、教科の科目では設置時やその他の大学における教職課程に実施調査でシラバスに記載した授業計画・内容を完全に実施することが求められていることから、科目によっては工夫しながら、アクティブラーニングを導入する必要があることが確認された。

### 【第7回（12月11日）】

参加者数 10名 講師／報告者 宮本直樹 准教授

#### 「我が国における ICT 教育の現状と課題」

本報告では、学校における ICT 環境における整備状況、教員の ICT 活用指導力、教育 ICT 活用事例集の内容を踏まえて、我が国の ICT の現状と課題について説明された。特に、近年、学校現場では、タブレットを利用した授業が増えていることやデジタル教科書の使用が多くなってきていることについて説明された後、宮本准教授が小学校における ICT を利用した実践例を紹介された。今後、小学校における ICT 教育が加速度的に導入・推進されることから、本学部においても、授業等においてタブレット PC の使用やデジタル教科書を積極的に導入する必要があることが説明された。